

# 科技高いきもの記

Vol.1 2020.6.27

佐藤龍平

西表島のマングローブ植物

## ヤエヤマヒルギの散布体

6月15日、西表島から大量のマングローブの散布体（タネのようなもの）が届いた。「西表島フィールドワーク」や「ボルネオ島フィールドワーク」でいつもお世話になっている琉球大学名誉教授の馬場繁幸先生が**本校の生徒のために送ってくださったのだ。**



約130本の散布体が届いた

マングローブとは、「**海の森**」とも呼ばれる、汽水域に生育する塩類耐性を持つ植物だ。東京でマングローブが見られる機会なんてなかなか無い。まだ余っているので育ててみたい人はぜひ申し出てください。よく質問されるが、塩水でなくても育つので真水でOK。（塩濃度を変えて育ててみても面白いかも）

すでにほしい人に配っているが、**教室や家で育ててみる人、課題研究で使う人**などがいて、中には**調理して食べてみたい！**という強者も現れた。味をまだ聞いていないので、感想が楽しみだ。

ところで、保存方法もよく分からないので、とりあえず半分は水を張ったバケツに、もう半分は段ボール（水なし）にいれたままにしてみた。10日ほど経った現在、明らかに段ボール内の方が発根が進んでいる。なぜだろう...。暗さ？水？...実験し甲斐がありそうだ。

### ヤエヤマヒルギ散布体の成長過程（西表島で観察）



花が咲いた様子  
花弁は白くてふわふわしている



受粉後の若い果実とその断面



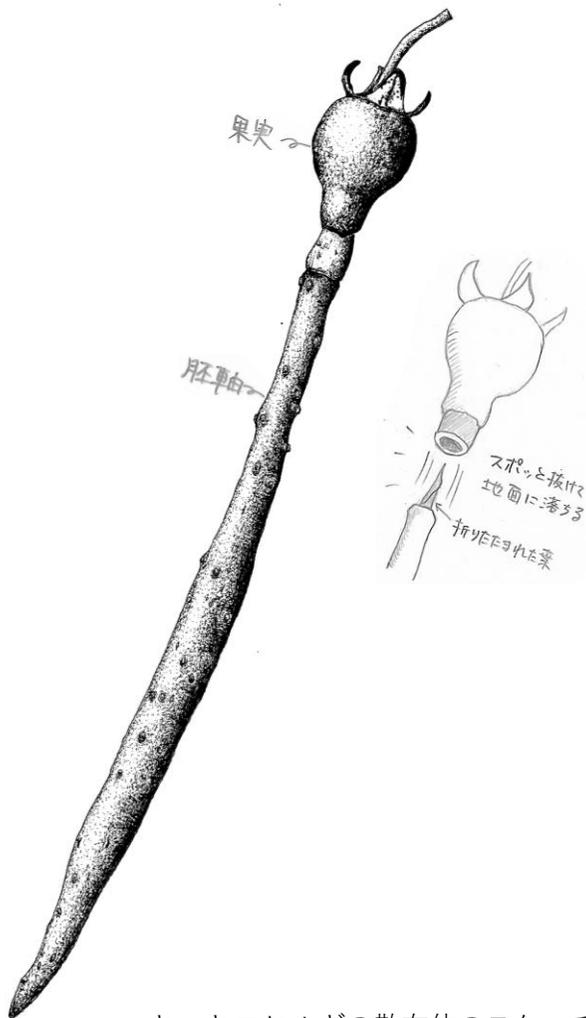
胚  
タネの内側にはこれから伸びていく胚が見える



果実を突き破って胚軸が伸びてきた



母樹から落ち、うまく地面に刺さると葉が展開し始める



ヤエヤマヒルギの散布体のスケッチ